

パネルディスカッションでは、コーディネーターの山崎教授と、5人のパネリストが登壇しました。まず地域福祉活動計画推進委員会副委員長の木月政弘さんが、活動計画を策定する経緯とその計画の内容を話されました。次に地域支え合い体制づくり事業のモデル地区である3地区の代表の方が、それぞれの地域でおこなっている取り組みを紹介しました。方城25区の田島靖さんは、要支援者を把握する見守りマップの作成、また緊急情報カードの設置、要支援者とハートフルキーパーとの関係づくりなどを話されました。次に金田6区の荒巻久美子さんは地域の老人部、子供部、婦人部、青年部が一体と

なって活発に公民館活動をおこない、地域のつながりづくりをしていることなどを話されました。赤池18区の赤星重雄さんは地域の役員や組長を中心とした作業部会を立ち上げ、「地域でできることは地域で」を合言葉に見守りマップづくりや防犯パトロールの計画などを地域一体となって取り組んでいることを話されました。最後に福岡県社会福祉協議会の田中忠輔さんは、県社協が取り組む事業や、他市町村の地域福祉の進捗状況を話されました。ディスカッションの中では、ハートフルキーパーを始めとする地域の人材の育成や後継者の問題、将来を担う子供たちの育成などの意見交換もされました。

社会福祉協議会の事業報告

社協 Report



伊方小学校 4年生 障がい者疑似体験学習

平成24年11月2日(金)、伊方小学校の4年生が車いすと白杖を使った障がい者疑似体験学習をおこないました。車いすの体験では「もしみんなが足をけがして、車いすの生活になったら」「もし家族の誰かが車いすに乗っていて、車いすを押してあげることになったら」の想定のもと、車いすを自分で動かしてみたり、車いすを押しながら段差を越えてみたりしました。視覚障がい者の体験では、アイマスクをして白杖で移動したり、介助を受けながら階段を昇り降りしました。子どもたちからは「怖かった」「大変だった」などの感想が聞こえてきました。



田川高校の生徒が 社会福祉協議会で職場体験学習

平成24年12月6日(木)、田川高校の2年生8人が社会福祉協議会で職場体験学習をおこないました。田川高校2年生では今年度、地域の方々の生活や文化に触れ、地域の職場を体験することにより、いい出会いをし田川地域の発展につながっていかうという主旨のもと職場体験学習をおこなっています。この日社会福祉協議会を訪れた生徒は、介護予防教室・配食サービス・生きがいデイサービスなどを体験しました。市場在住の田中竣朔くんは「介護予防教室の参加者と一緒に体操をしてとても楽しかったです」と感想を述べていました。